

第3章

高浜市における 生涯学習の現状と 今後の課題

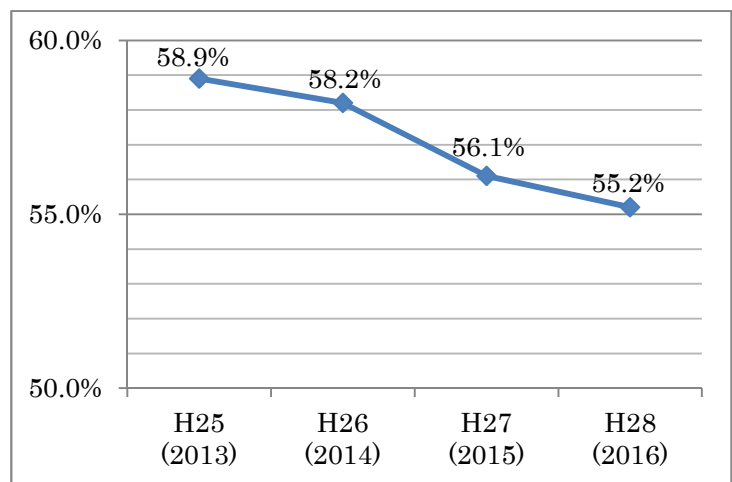
1 市民意識調査から見る生涯学習の現状

「第6次高浜市総合計画」におけるまちづくりの進み具合を測るために、毎年「市民意識調査」（満18歳以上の市民2,500人を無作為抽出）と「小・中学生アンケート」（小学3年生～中学3年生を対象）を実施しています。生涯学習に関する主な調査結果は、次のとおりです。

(1) 市民意識調査

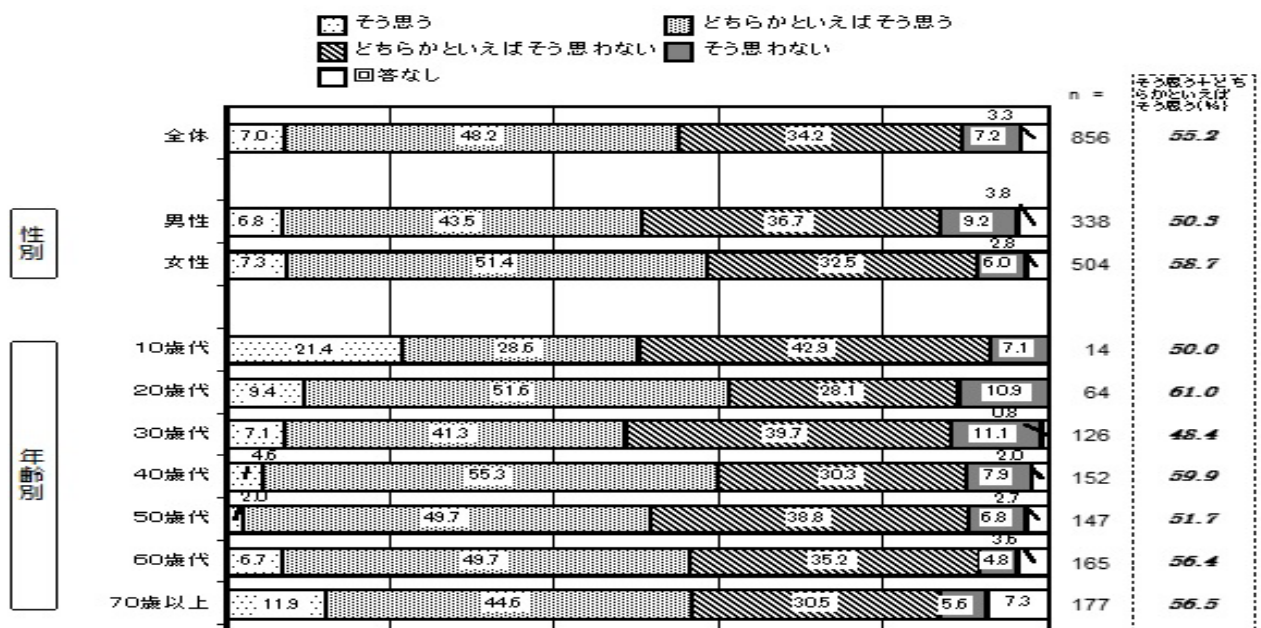
① まなび（生涯学習やスポーツなど）を通して、人と人がつながり、まちづくりを担う人が育っているまちだと思う人の割合

年々、低下傾向にあります。
 年代別にみると、居住年数の長短の影響も考えられますが、まなび・文化・スポーツ活動を通して、人とのつながりや高浜市の良さを発見できるよう、市民・団体・地域・事業者・関係機関と連携・協力しながら、活動を豊かにしていくことが大切です。



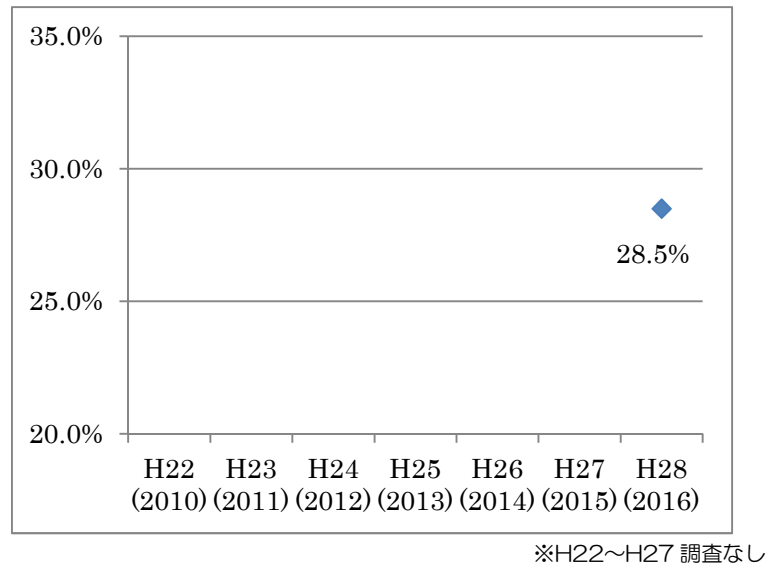
※H22～H24 調査なし

<H28 結果詳細>



②持っている知識・特技・体験などを地域や社会活動に活かしている人の割合

この指標が高まっていくことにより、趣味・教養・余暇・娯楽といった「自分のための学び」にとどまらず、「教える」「発表する」「活動する」など、社会の中で様々な形で活かしていくことにより、人と人とのつながりや生きがい・やりがいが育まれ、「もっと知りたい」「何かやってみたい」「誰かの役に立ちたい」「住んでいるまちをよりよくしたい」といった学びの好奇心や意欲の向上、まちへの愛着・誇り、まちづくりへの参加・参画の裾野の広がりといった循環が期待されます。

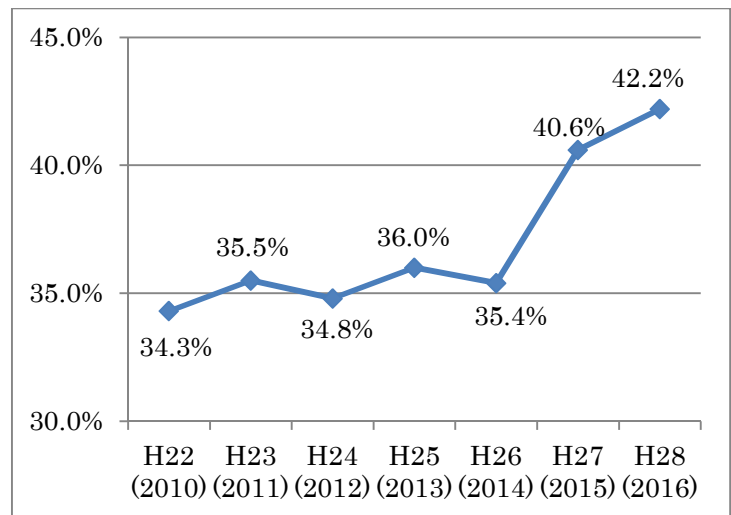


③日常的に運動やスポーツを行っている人の割合

健康意識の高まりもあり、年々上昇傾向にあります。

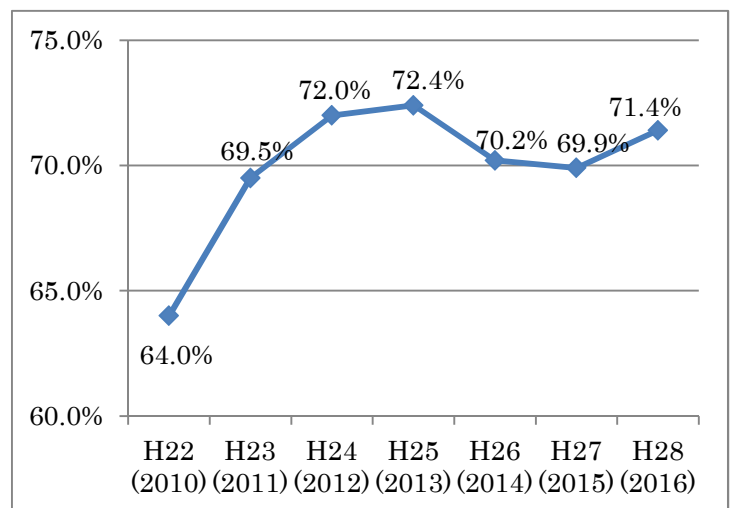
子どもも大人も、初心者も熟練者も、運動が得意な人も苦手な人も、全ての市民が生涯を通じて自分たちのライフスタイルに合わせたスポーツ・健康づくり活動に取り組んでいくことが大切です。

スポーツを通じた市民同士のふれあい機会の増加につながることも期待されます。



④高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合

まちの自慢や魅力を知り、まちへの愛着・誇りが高まることは「住んでいるまちをよりよくしたい」という思いにつながっていくもので、市民の主体的な学びやまちづくりの原動力となっていきます。

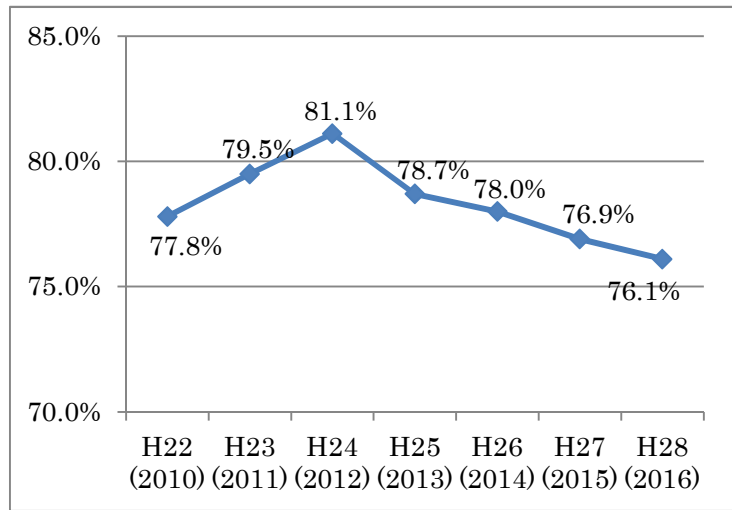


(2) 小・中学生アンケート

①将来の夢を持っている子どもの割合

この指標が高まっていくことは、目標に向かって自ら学び、努力・挑戦していく子どもの増加につながり、成長につながっていくことが期待されます。

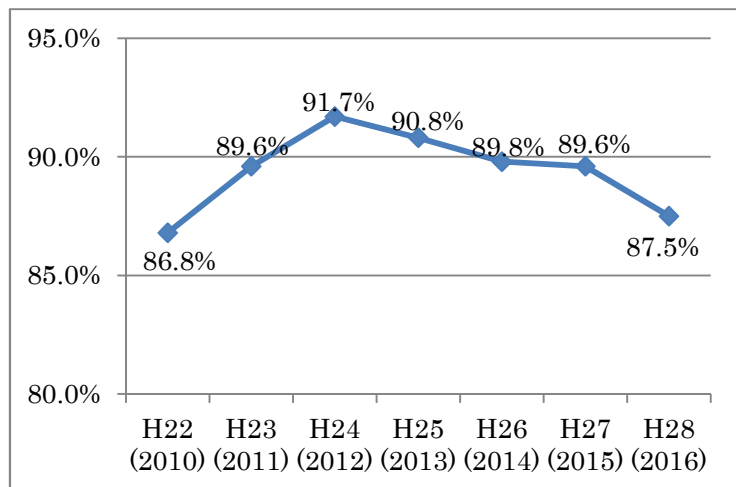
生涯学習分野だけでなく、学校教育分野とも連携しながら、まなびのエネルギーとなる好奇心や意欲、感動、楽しい成功体験が得られるようにしていくことが大切です。



②高浜市を好きな子どもの割合

約9割の小・中学生が「高浜市が好き」と回答しています。その想いを持続し、「自分の住んでいるまちは・・・」とまちの魅力・自慢などを語る子どもたちを増やしていくことが、将来のまちづくりの原動力につながっていきます。

また、子どもを通じて保護者世代に対してまちの良さが伝わっていくことも期待されます。



4 基本計画【前期・中期】の主な取組み・成果と今後の課題

基本目標（1） 「まなび」の芽を発芽させよう！

- 目標① 自分磨きを続けていこう！
- 目標② 未来に羽ばたく人材を育てていこう！
- 目標③ セカンドライフをいきいきと過ごそう！

主な取組み・成果	今後の課題・新たな課題
<p>○まちづくり協議会などの市民・市民団体が主体となった、学びの好奇心や意欲を高める多種多様な講座・体験事業が活発に行われた。（通年）</p> <p>○たかはま夢・未来塾をはじめ、文化・スポーツなどの全国・世界大会へ多くの子どもが出場している。好成績を収める子どもも多く、市民やまちの自慢・誇りにつながっている。（通年）</p> <p>○市民ムービー「タカハマ物語」の制作等を通して、年齢を超えた人と人とのつながり、自ら考え行動できる子ども・若者の育成、住んでいるまちのために何かやってみたいという想いの醸成や行動につなげることができた。（H24～）</p> <p>○子ども健全育成支援員を配置し、子ども・若者への相談支援を実施した。また、学習支援事業を開始した。（H27～）</p> <p>○高浜高校生によるSBP（ソーシャル・ビジネス・プロジェクト）活動が始まった。（H28～）</p> <p>○生涯現役のまちづくり（例：健康自生地）事業の推進により、高齢者の閉じこもり予防、外出機会や活動担い手としての活躍の場などが創出された。（H24～）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●まなびの入口となる知的好奇心や意欲が掻き立てられる講座・体験の機会を、市民・地域・関係機関などと連携し、より一層、豊かにしていくことが大切である。 ●地域の大人たちに見守られ、育った子ども・若者たちが、サポーターや指導者など、次世代等のためにまなびの担い手として活躍できるようにしていくことが大切である。 ●経済格差によって学力等に差が生じないように、子ども・若者の「学びたい」という想いを支えていくことが大切である。 ●年齢等を問わず、いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも気軽に楽しめるニュースポーツ（例：ポッチャ、ファミリーバドミントン、ノルディックウォーキング）を、より一層普及させていく必要がある。

基本目標（2）

「まなび」の芽を育てるために、みんなで水や養分を与え合おう！

- 目標① 学区を基盤とした世代間交流を活発にしよう
- 目標② 教え・教えられる仲間づくりを築いていこう！
- 目標③ まなびの資源をフル活用しよう！

主な取組み・成果	今後の課題・新たな課題
<p>○幼稚園・保育園、小学校、中学校において、各園・各学校の特色や地域資源（ひと・もの・こと）を活かした「高浜カリキュラム」（生活・総合的な学習の時間）の、市内全園・全校での完全実施が始まった。（H28）</p> <p>○高取小学校区において、おやじの会（鷹取の会）が発足した。（H28）</p> <p>○たかはま夢・未来塾サポーター、「タカハマ！まるごと宝箱」事業における発表、かわら美術館アートサポートメンバーなど、学び等で培った知恵・技能・体験等を活かせる機会を創出した。（通年）</p> <p>○「ざっくばらんなカフェ」等、多様な人が集い、ゆるやかにつながり合う場を創出した。（通年）</p> <p>○「高浜芳川緑地多目的広場」（グラウンド部分）を供用開始した。（H29）</p>	<p>●子どもたちが地域の人たち（ゲストティーチャー）と関わる中で、地域や社会に関心を持ち、「自分も高浜市民の一員である」ことを自覚し、自分にできることを考え、実践できるようにしていくことが大切である。</p> <p>●「自分のための学び」にとどまることなく、学んだり体験したことを、「教える」「発表する」「活動する」など、社会の中で、あるいは次の世代のために様々な形で活かせるよう、活動の担い手の掘り起こしと育成、市民同士の学び合い・高め合いの場づくりを、市民団体・地域・関係機関とも連携・協力しながら進めていく必要がある。</p> <p>●「公共施設総合管理計画」や年度ごとに策定する「公共施設推進プラン」に基づき、図書館・かわら美術館・体育センターなど、生涯学習・文化・スポーツ施設のあり方検討や再編を進めていくことが大切である。</p> <p>●公共施設（生涯学習施設）のあり方検討・再編にあたっては、市の将来を見据えて取り組んでいることを市民にわかりやすく伝えていく必要がある。</p>

基本目標（3）

「まなび」の根っこをしっかりと大地へ下ろし、芽を大樹のように育てていこう！

- 目標① まちへの愛着と誇りを高めていこう！
- 目標② 地域の個性をまちづくりに活かしていこう！
- 目標③ まなびを支える仕組み・体制づくりを整えていこう！

主な取組み・成果	今後の課題・新たな課題
<p>○「タカハマ！まるごと宝箱」事業を立ち上げ、高浜市の魅力・自慢の掘り起こし・発信等を進めた。魅力・自慢の伝承・活用等が重要であるという意識を高めることができた。（H26～）</p> <p>○新たな「高浜市誌」の編さん事業に着手し、市民・団体・学識経験者・関係機関などと連携・協力しながら調査活動を進め、新たな資料の掘り起こしを行うことができた。（H28～）</p> <p>○「菊人形づくり」の技を、高浜市無形文化財に指定した。（H28）</p> <p>○小学6年生を対象に、市民と行政が連携し「自治基本条例出前授業」を行った。（H25～）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●まちづくりの原動力となる「高浜市が好き」「住んでいるまちをより良くしたい」という想いを高めていくことが重要である。 ●市民とともに、まちの魅力・自慢（歴史・文化・伝統・産業・景観など）を掘り起こし、守り、伝え、活かしていく活動を強化し、先人たちのあゆみや、まちの魅力・自慢を市民の共有財産として継承し、まちづくりに活かしていくことが大切である。 ●文化・伝統の伝承、後継者育成が重要である。 ●まなびは人づくりやまちづくりの土台となる重要な要素であるという意識を高めるとともに、子育て・子育ち、福祉、健康、環境、防犯・防災、産業、職業訓練など、様々な分野の取組みをまなびという視点で横ぐしを通し、まなびの効果を高めていくことが大切である。

人間を賢くし人間を偉大にするものは、
過去の経験ではなく、未来に対する期待である。

なぜなら、期待をもつ人間は、
何歳になっても勉強するからである。

(バーナード・ショー)

